

# ウソにウソを重ねて設楽ダム造り



## 1 水道用水需要が 1.3 倍にも増える？

巨大ダム、総貯留容量 9800 万  $m^3$  の設楽ダム計画のよりどころ、豊川水系の河川整備計画と水資源開発基本計画（通称：フルプラン）のうち、後者を審議した国土審議会水資源分科会豊川部会の資料には、一目でウソがわかる図表が多数載っている。まず、水道用水の予測である（図 1）。

すでに 10 年以上にわたって実績は停滞して伸びていないのに対して、2015 年には 1.3 倍にも増大すると予測している。人口の伸びはほぼ止まり、経済成長についても鈍化どころかマイナス・縮小傾向になっている現在、水道用水の需要が 1.3 倍も増大するとの予測は明らかなウソだ。その上、高く見積もった需要の予測値を、供給可能量ははるかに上回っている。供給過剰だから本来ならダム計画はご破算になるはずなのに、渇水の年には供給不足になる可能性があるとして、450 万  $m^3$  ほど

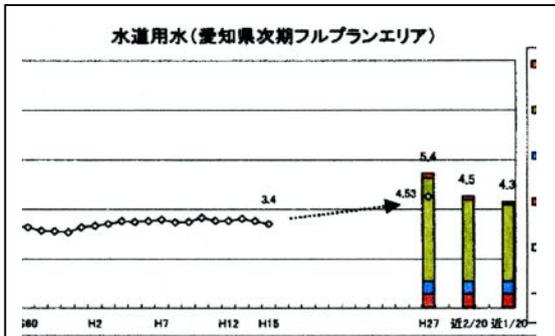


図 1 水道用水需要が 1.3 倍増加するとの予測

の貯水容量を設楽ダムで水道用に設定するとしている。このわずかな水道用水の確保が、法律（特定多目的ダム法）上、設楽ダムの唯一の根拠なのだから、このウソは罪深い。

## 2 工業用水需要は 2.3 倍にも増える？

同じ資料の中に示されている工業用水の需要予測はもっとひどい。2015 年には現状の 2.3 倍にも伸びるとしている（図 2）。

これだけ高く予測しても現在確保している工業用水の水利権の枠に達しないし、渇水年でも不足しないため、設楽ダムから新規の工業用水を確保する計画にはなっていない。ところが、工業用水

を異常に高く見積もることによって、水道用水と

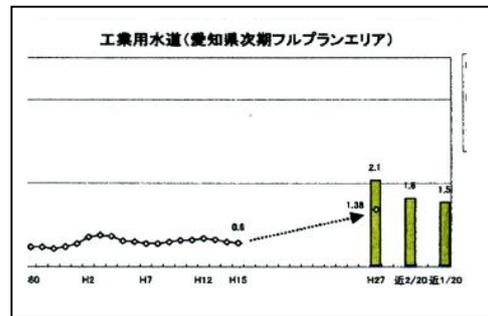


図 2 工業用水需要は 2.3 倍増の予測

合わせた“都市用水”の需要予測を押し上げて、渇水年には“都市用水”の供給が十分でなくなるとのウソを作り上げる仕掛けになっているのだ。

## 3 農業用水が不足するというウソ

豊川用水は第二次世界大戦の終結後、荒れ果てた農地と低下した農業生産を回復させ、不足する食糧の増産を目標として事業化され、1958 年に水源として宇連ダムが完成し、10 年後の 1968 年に全体が完成した。当初の目標は主食としての水稲栽培のための用水開発であった。すぐに米の生産調整が始まり、目標は変更されてきた。その後の豊川総合用水事業を含めて、事業主体は農林省（現農水省）で、計画基準年は 1947 年（s22 年）であった。いっぽう建設省（現国土交通省）が事業主体となって進めてきた設楽ダム計画の基準年は 1968 年（s43 年）である。二つの異なる基準年で水需要を見積もると、雨の降り方が異なるので当然ながらその間にずれ・不一致が生じる。これを利用して農業用水が不足しているというウソが作られた。豊川水系フルプランを決定した国土審議会資料の農業用水需要想定に用いた既開発水量の値が実際よりも 3000 万  $m^3$  / 年も小さく偽装され、“供給不足”が演出されている。

実際には、農業用水を多量に使う水田耕作の面積は大きく減っており、供給不足はありえない。

## 4 ダムの前提 = 少雨化傾向 のウソ

少雨化傾向により、既設の水源施設（豊川用水の水源の宇連ダムなど）の渇水時の水供給能力（安定供給能力）が落ちているので、それを補うため

に設楽ダムが必要であるとグラフ(図3)を示して

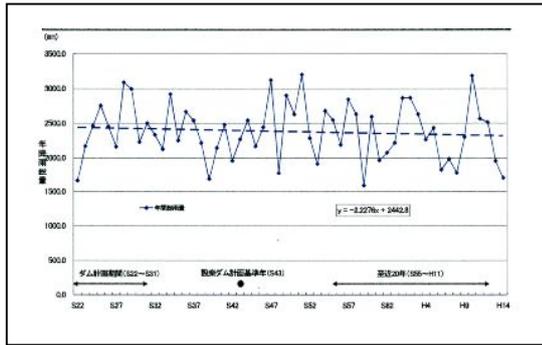


図3 国交省は少雨化傾向をダムの根拠に

国土審議会豊川部会の資料には説明されている。ところが、作手観測点など気象データを調べてみると、実際には少雨化傾向の根拠はない。

## 5 水不足だという真っ赤なウソ

設楽ダム工事事務所が作ったパンフレットには、全国7水系の中で豊川水系が頭抜けて節水日数が多く、水不足が顕著であると書かれている(図4)。なるほど、1968年に豊川用水が完成して以来、節水の呼びかけや給水圧の調整を実施した年が多いことは確かである。ところが、1つのダム・1組の頭首工と導水路・4つの調整池の新設という大規模な水源開発事業「豊川総合用水事業」が完成した2002年4月以降は、状況はまったく変わった(図4に書き加えたH15~19の青棒を参照)。観測史上最少降

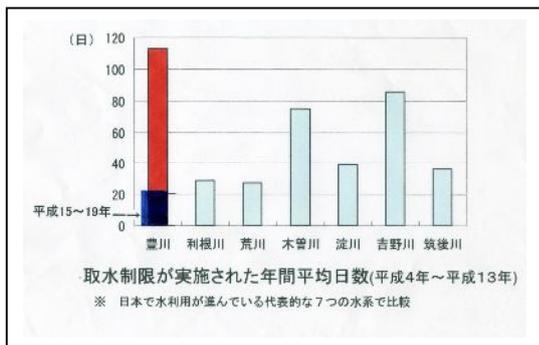


図4 古いデータで豊川水系の水不足を演出(赤棒)

水量を記録した2005年に100日あまり(2006年の1~3月期を含む)の節水の呼びかけ(若干の給水圧調整日を含む)があった以外は、他水系と比較しても水供給には余裕がある。現在、豊川用水は連続無節水日数の記録更新を続けており、まもなく1100日を越える。豊川水系が全国一の水不足であるというのは真っ赤なウソである。

## 6 自然にやさしいダム造りという大ウソ

堆砂(死水)容量を除いた有効貯水容量9200万 $m^3$ の65%に当たる6000万 $m^3$ が「流水の正常な機能の維持のため」の不特定容量とされる全国でも初めての大規模ダムである。「自然に優しい」ダムを造るという看板こそ、最大のウソである。

豊川水系では、これまで支流の宇連川水系を中心に水資源開発を行ってきた。そのため、宇連川では、3つのダム(宇連ダム、大島ダム、大野ダム)が土砂を堰き止め、また中小洪水がめったに起きなくなったことも重なって、岩石表面の付着藻類を削り取る砂礫が流れなくなった。新鮮な珪藻が生えないのでアユは生息できず、水生昆虫も少ない川となっている。したがって、大野頭首工の魚道から毎秒1.3 $m^3$ 放流し、たとえ魚道を魚が遡



写真 寒狭川の瀬を埋め尽くす丸石・砂礫は、川の自然

の豊かさの指標である。ダムはこれを根こそぎ奪う。たとしても、砂礫を流す洪水流なしには、宇連川の河川環境が改善される可能性はない。設楽ダムを造り、溜まった水を導水路によって寒狭川から宇連川に回して流れをとりもどす「流水の正常な機能の維持」という看板は、目的を失ったダム造りを隠すためのただの目くらましに過ぎない。

それどころか、設楽ダム建設によって、国の天然記念物ネコギギが住みアユやアマゴの釣れる寒狭川上流から、自然な流れの変動と丸石・砂礫が失われて自然豊かな清流がただの用水路になってしまう。

あなたは、こんな設楽ダムの建設を許せますか?

### 設楽ダムの建設中止を求める会

代表 市野和夫 豊橋市賀茂町山屋敷 28 - 1

事務局 奥宮芳子 電話 0532 - 54 - 7305

<http://no-dam.net/index.html>